令和２年度　前期卒業式式辞

本日、学部を卒業し学士の学位を得た７名の皆さん、大学院修士課程を修了し修士の学位を得た２名、博士後期課程を修了し博士の学位を得た 3 名の皆さん、学位取得おめでとうございます。

令和 2 年に入ってから深刻化した、新型コロナウィルス感染症に対して、和歌山大学では、登学の制限、ICT を用いた遠隔授業の実施等の対応をしてきました。本学で、新しい感染クラスターを発生させないための措置ではありましたが、学業の最終段階にあった皆さんには特に非常に辛い時期であったと考えます。この難局を乗り越え、本日、皆さんを卒業生、修了生として送り出せることを、列席しております理事・副学長、学部長、そして本学の教職員とともに心よりお祝い申し上げます。

論語に、「歳(とし)寒くして、然る後に松柏(しょうはく)の彫(しぼ)むに後(おく)るるを知るなり」という言葉があります。これは、「気候が寒くなってから、（他の植物の葉が枯れ落ちるなかで）はじめて松や柏が枯れないで残ることがわかる」という意味で、艱難にあってはじめて人の真価がわかることを指しています。

現在の社会状況はコロナ禍の中で厳しく、流動的な状況にあります。この状況を打開するために、多くの人が知恵を絞り、対応に当たっています。本学をはじめとする多くの大学がコロナウィルス感染症の拡大を防止するために、ICT を活用した遠隔授業を取り入れました。従来から、課題とされながらもなかなか進まなかった遠隔授業が、このコロナ禍によりわずか数ヶ月で全国的に実施されることになりました。遠隔授業については様々な意見がありますが、これまで進まなかった取り組みが、短期間で劇的に進んだことは驚くべきことです。

この例のように、このコロナ禍を契機として、社会の有り様はこの 1、2 年で大きく変化することになるでしょう。この激しい変化は人、そして社会にとって厳しく、まさに歳寒いと表現される状態です。そのような社会の大きな変化に対応することが皆さんには求められることになります。本学を卒業された皆さんは、本学での学修生活において、十分な知識、

技能と共に、そのような新しい事態に対処する力を十分身につけています。これまでに培い、蓄えた力を遺憾無く発揮し、冬季の松や柏のように、この時代の大きな変革期を乗り越えて存在感を示し、次の時代を切り拓いていただきたいと思います。

もう一つ、本学を卒業するにあたって心に留めておいていただきたいことがあります。それは、多様性の確保です。皆さんご存知のように、本学の学部は、１学科、１課程制をとっています。本学がこのような教育課程をとっているのは、新しい学術、産業、そして文化を築くその担い手には、多様性を認め、視野を広く持つことが重要であるとの意図によるものです。世界に目を向けると、多様性の排除とも取れる動きが多く報道されています。しかしながら、多様性のない社会は状況の変化に脆いことが、歴史を顧みれば明らかです。他者の有り様、考えを尊重し、違いを認めることで、多様性が確保され、それと同時に皆さん自身の存在をも確固たるものとすることができます。多くの人たちと意見を闘わせ、そして認め合うことが、多くの実りをもたらします。その時、本学のとった一学科、一課程制の意味が鮮やかに蘇ってくると考えます。皆さんは、本学での学びにより多様性を認める深い思慮を身につけてきたことと思います。社会に出てからも、是非、本学の教育体制の有り様を心に留めておいてください。

最後に、改めてお祝いいたします。
皆さん、卒業・修了おめでとうございます。

「歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知るなり」
冬季の松柏となられんことを祈ります。

令和２年９月25日
和歌山大学　第17代学長　伊東 千尋